

## 信貴山縁起絵巻をよむ

平群町立平群北小学校 中澤 哲也

### 1. 単元名 信貴山縁起絵巻をよむ

### 2. 単元の目標

- ・信貴山縁起絵巻について自分の中で課題を見つけ、効果的な調査方法で友だちと調べたり、まとめたりすることを通して絵巻に秘められた魅力を多面的に理解する。(知識・技能)
- ・信貴山縁起絵巻を紹介するにあたって、調べたことをもとに絵巻の魅力について考えたり、表現したりする。(思考・判断・表現)
- ・信貴山縁起絵巻を通して、地域に対する関心を高め、さらに絵巻についての魅力や発見はないか、意欲的に調べたりまとめたりしながら取り組む。(主体的に取り組む態度)

### 3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
①ゲストティーチャーの取材を通して、絵巻の魅力について調べている。	①ゲストティーチャーから取材したことをもとに、絵巻の魅力について自分で考えたり、選んだりしている。	①絵巻に関心をもち、意欲的に調べたり、まとめたりしている。
②絵巻の魅力を多角的に理解している。	②絵巻の良さが読み手に伝わるように解説文を推敲し、表現している。	②絵巻の良さを町の人たちにもっと知ってもらいたいという意欲をもって取り組んでいる。

### 4. 単元について

#### ○教材について

信貴山は奈良県の北西部、生駒山地の南端から東に突き出たところにある。大和（奈良県）と河内（大阪府）の境に位置し、古くから霊山として信仰されてきた。標高 437 メートルの山の中腹に朝護孫子寺があり、ここに日本一の絵巻と言われる信貴山縁起絵巻が伝来された。現在は国宝に指定され奈良国立博物館に保管されており、朝護孫子寺では、江戸時代に複製されたものが展示されている。信貴山縁起絵巻は「山崎長者の巻」「延喜加持の巻」「尼君の巻」の三つの絵巻でできている。この三つの絵巻全てに登場するのが、絵巻の中心人物である命蓮（みょうれん）というお坊さんである。命蓮は、9世紀から10世紀前半にかけて実在した人物である。記録によれば、命蓮は若くして信貴山に登り、そこで修業をつんだという。

信貴山縁起絵巻の魅力は数多くある。まずは物語のおもしろさである。「山崎長者の巻」は、命蓮が法力を使って托鉢（たくはつ）の鉢を飛ばして米俵を収めた倉を空中に浮かせて、ずる賢い長者をこらしめる物語である。「延喜加持の巻」は、命蓮が信貴山に居ながら病に臥している宮中の天皇を治したという物語。「尼君の巻」は命蓮の姉が自分の弟を探しているときに、東大寺の大仏からお告げを受け、無事に姉弟が出会った物語である。まるで現代のSF小説のような展開が繰り返されている。

次に絵巻に描かれた人々についてである。絵巻に登場する人々の表情が非常に豊かに描かれている。

とくに庶民の笑いや驚きを描写する際の、誇張された顔形といきいきした表情は、平安の三大絵巻といわれる「源氏物語絵巻」「伴大納言絵巻」のなかでも明らかに傑出している。また登場人物の服装や建物など、当時の生活の様子が鮮明に表されている。

次に絵巻に描かれた風景描写についてである。「尼君の巻」では、険しい谷あいでも勢いよくほとぼしる水流が、水底の岩を乗り越えて盛り上がりながら流れゆく様子が描かれている。「山崎長者の巻」では、紅葉や落ち葉といった秋の山が鮮やかに描かれている。こういった風景も物語を楽しむうえで欠かせない技術である。また鹿や犬など、動物も今にも動き出しそうに描かれている。

最後に絵巻ならではの表現技法である。現代のマンガと違い、一枚の巻物の中で場面ごとの区切りを自然に表現している。「山崎長者の巻」では、倉を追う長者たちの近景描写からしだいに秋の山中に向かって中景描写へと移り、ほとんど霧に覆われたのち、信貴山手前の山景の遠景描写へと変化する様子を含め、かなりつめた画面で表している。こういった自然の空を描きながら、時間と空間を操っているのである。また、「尼君の巻」では東大寺大仏殿前で、尼君が何人も描かれている。これは同じ図の中に、異なった時間の出来事を重ねて書き込み、時間の経過を表現している「異時同図法」という表現技法を使っている。尼君が大仏の前で長時間命蓮を見つけるためのお告げを待っていたことが読み取れる。こういった巻物ならではの表現技法が絵巻の所々で利用されている。また、絵巻をめぐる謎も多く、誰がいつ描いたのか、どのような伝来経路をたどったのか、第一巻の最初は現状どのような場面から始まっていたのかなど未だに解明されていない。

#### ○指導について

本単元は国語科の単元である「鳥獣戯画を読む」の教材を通して、信貴山縁起絵巻と児童を出会い、そのよさや特徴を読み解き、解説文を書くという構成で進めていく。

信貴山縁起絵巻について調べていくにあたって、地域の人材を活用していく。一つは、教育委員会の学芸員に来ていただき、絵巻についての概要や、学芸員の視点から見た絵巻のよさ、絵巻のことをさらに町民に知ってほしいことなどを解説していただく。もう一つは地域で平群町のよさを伝えている、観光ボランティアガイドの方々に来ていただき、児童の絵巻に対する疑問に答えてもらいながら、ボランティアガイドから見た絵巻の良さや、見所、今後絵巻がどうなっていってほしいかなどを解説していただく。

以上の二つのゲストティーチャーとの出会いから、児童がみんなに知ってほしい絵巻の見所を「鳥獣戯画を読む」を解説した高畑勲のように、解説文にしていきたい。

最後に町の観光産業課の協力を得て、平群の道の駅で自分の作成した解説文を、買い物に訪れた人に配布したり、絵巻について語ったりする時間を設けることでより発信することの喜びや意義を感じてほしい。

### 5. ESDとの関連

#### ○学習を通して主に養いたいESDの視点

・信貴山縁起絵巻について読み解いていく中で、学芸員の方の視点で絵巻の良さを知ったり、ボランティアガイドの方の視点で絵巻の良さを知ったりと一つの事象に様々な良さが見いだせることについて理解する【多様性】

・学芸員の方やボランティアガイドの方々が地域に伝えてきた、絵巻の魅力をも自分たちも発信していきたいという思いを育む。【責任性】

○学習を通して主に育てたいE S Dの資質・能力

⑤協働的問題解決力：ゲストティーチャーと共に、絵巻が地域の方々に知ってもらうためにはどうすればよいか考える。

○E S Dで育てたい価値観

①世代間の公正：信貴山縁起絵巻の良さを将来世代の人たちへも伝えていきたい。

○貢献できるSDG s

目標 8：ボランティアガイドの方々との交流を通じて、ボランティアで地域の素晴らしさを伝えていく意義を学ぶ。

目標 11：国宝である信貴山縁起絵巻の啓発を通して保護・保全に関わる努力をする。

## 6. 単元展開の概要

全 10 時間

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
<p>1. 「鳥獣戯画を読む」を通して、絵巻の素晴らしさやおもしろさに気付く。(国語科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本文化として注目されているアニメの起源なんだ。</li> <li>・ 吹き出しがなくても動物の表情から何を言っているのかわかってくるね。</li> <li>・ 約 850 年前から伝わっているんだ。</li> </ul>	<p>○筆者である高畑勲がどのような観点で鳥獣戯画を捉えたか押える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵巻の仕組み</li> <li>・ 動物の表情</li> <li>・ 日本の漫画やアニメーションの起源</li> </ul>	
<p>2. 国宝信貴山縁起絵巻について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平群の宝物が巻物だったなんて知らなかった。</li> <li>・ どんな物語なんだろう。</li> <li>・ 家の人は巻物が平群の宝物だったなんて知らなかったよ。</li> </ul>	<p>○平群町にも国宝の絵巻があることを紹介することで、教材と児童の距離を身近に感じさせる。</p> <p>○絵巻を見せ、何について知りたいか質問を募る。</p>	ア①
<p>3. 学芸員の方から信貴山縁起絵巻について話を聞く。(11月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どういったお話なのか</li> <li>・ 学芸員おすすめの見所はどこか</li> <li>・ さらに絵巻を知ってもらうためには、どうすればいいか</li> </ul>	<p>○全体的なお話の流れだけでなく、モニターに絵巻を大きく映し出しながら、細かい部分も解説してもらうようにする。</p>	ア①

<p>4. ガイドさんとの出会い。(11月29日)ガイドさんにとっての絵巻の良さやガイドのやりがい等について聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドとしての絵巻の見所はどこか</li> <li>・絵巻が今後どうなっていってほしいのか</li> </ul>	<p>○班ごとにガイドに入っただき、少人数で交流できるようにする。</p>	<p>ア①</p>
<p>5. 信貴山縁起絵巻について、自分の紹介したい部分を見つけたり、選んだりする。</p>	<p>○学芸員や、ボランティアガイドさんたちが紹介してくれた良さから選んだり、自分で考えたりする。</p>	<p>ア② イ① イ②</p>
<p>6. 自分で選んだ場面の解説文を書く。</p>	<p>○絵巻の概要、選んだ場面の解説、絵巻に対する想い、の三段落構成で書く。</p>	<p>ウ①</p>
<p>7. 道の駅で紹介文を配布したり、解説したりしながら信貴山縁起絵巻の良さを伝えていく。</p>	<p>○ただ読むだけでなく、聞き手を意識して、解説するようにする。</p>	

#### 7. 実践による成果

今回の実践による成果を次の二点で振り返る。一つ目は自治体や地域との連携の有用性について、二つ目に児童の変容とその要因についてである。

一つ目の自治体や地域との連携の有用性についてである。今回の実践を行うにあたって、平群町教育委員会の学芸員の方、平群町観光ボランティアガイドの方々、平群町役場の観光産業課の方々との連携があった。授業者自身もこの学習に取り組むにあたり、信貴山縁起絵巻に関する自主学習を進めていたが、児童がより専門的な知識を学ぶために、学芸員の知識は大変重要な資料であった。絵巻の概要だけでなく、国宝の意味や、それを守ることの大切さ、難しさなど、学芸員ならではの見解を語っていただくことができた。ボランティアガイドの方々には7名も来校いただくことができた。児童3~4人につきガイドが1人という近い距離で意見を聞いたり、質問をしたりすることができた。また、ガイドの方々もこの交流の三日前に自ら絵巻の勉強会を開かれ、具体的な知識や資料などを用意してくださっていた。観光産業課の方には、児童が書いた絵巻を地域の方々に発信する機会を準備していただき、10名の児童が平群道の駅で自分の選んだ絵巻の一場面を紹介することができた。

二つ目に児童の変容とその容認についてである。導入時にはほとんどの児童は信貴山縁起絵巻について知識がない状態であった。振り返りにも「初めて知った」との声が多く、また「どんな内容なのか詳しく知りたい」と、絵巻に関心を示す声も多かった。学芸員の方との学習後には「平群に国宝があるなんてびっくりした」という児童や「平群にこんなすごいものがあるなんて、なんかうれしい」と自分の地域の良さに驚き、喜ぶ児童も見られた。また、ボランティアガイドの方々との交流の後に、「この絵巻のことをもっと地域の人に知ってもらいたい」「家族の人に教えたい」といった、文化の継承に意欲をもつ児童が増えた。有志で募集した道の駅の発表者の中に、普段授業中にほとんど発表しない児童が自ら申し出てくれるなどの姿を見ることができた。この要因として、自分たちが知らなかった町の良さを改めて知り、それを大切に保存、継承している学芸員の方やボランティアガイドの方々との交流によって、自分も同じ町民として絵巻を後世に伝えていきたいという責任性が育まれたのではないかと考えられる。

信貴山縁起絵巻を詠む 六年一組 泉本由翔

この絵は信貴山縁起絵巻の飛倉の巻の場面。信貴山縁起絵巻とはちがいのものようにおぼつた人の法力によりお全持ちの長着



ちんのところ飛んでいって食べ物やものをもつていたのだがあやまって倉にはちがいにめてしまったためはちがいの長着をこの倉にもってしま

ちんのお話です。絵巻はつづの本と違って飛倉の巻でも用紙もあるけれども途中でまわっているところもあるかも知れない。もう少し詳しく絵をみてみよう。この場面は一番風にはたはたは人が昇っているところ。木のうしろの人にもう一羽で昇る音がなるといふ音は紙の音。酒に酔ひひいた人は紙を昇えながら。つづいてこの場面の左上の方には、倉も校倉といふ寺長にあり正

倉院と同じ作りかた。この倉の作りもていねいに細かいところまで描かれています。冬にすばらしい。信貴山縁起絵巻には他に冬にはすばらしいところがあり、わし自身もほとんど魅力が見えてくるとは、このまばゆい絵巻を10年100年と守っていきたい。

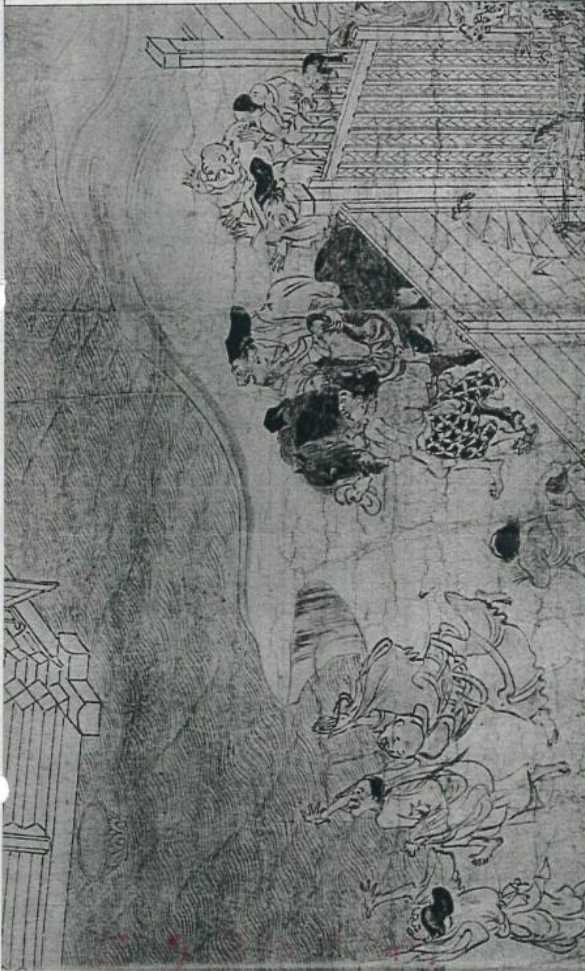
信貴山縁起絵巻 冬にすばらしいところがあり、わし自身もほとんど魅力が見えてくるとは、このまばゆい絵巻を10年100年と守っていきたい。



信貴山縁起絵巻を讀む 六年一組 兼本 悠加

この絵は、「信貴山縁起絵巻」飛倉の巻の一場面。

信貴山縁起絵巻とは、平群町の信貴山朝護孫子寺に、約八百年の間、大切に伝えられてきた絵巻物で



ある。

もう少し絵を詳しく見てみよう。この場面は、命運というおぼろの法かではちが倉を飛ばしているという様子が描かれている。口をあけてびびりしている人や、笑っている人がいる。その様子以外にも、倉を追いかける時に使う馬の形が、ごぼごぼたりあせりすぎてはだしで、倉を追いかけてようとする様子なども、実にすば

らしい。

信貴山縁起絵巻をじっくり見て、よく考えてみると他にもたくさん面白いが出てくる。この絵をずっと大切に、平群町にある他の文化財も私達が守っていく必要がある。

信貴山縁起絵巻を、早く見るべき  
平群町には、他にも文化財が  
たくさんある。私達が守るべき



信貴山縁起絵巻を読む 六年一組 荒木美百合

この絵は『信貴山縁起絵巻』飛倉の巻の一場面、信貴山縁起とは平群町の信貴山朝護孫子寺に約100年の間、大切に伝えられてきた絵巻物である。



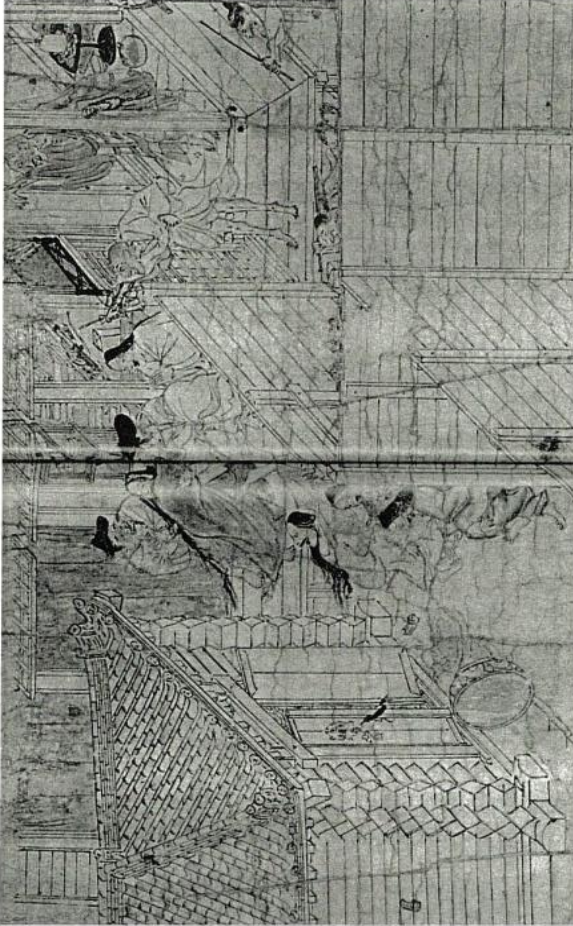
もう少し絵をくわしく見てみよう。  
この場面から、倉が命蓮というおぼ  
うさんの法衣をもた鉢に飛ばされて  
いることが分かる。その下で長者た  
ちがあせいながら追いかけている様子  
も描かれている。長者さんやおぼ  
うさんなどが、まだげわいしをた  
だけはいて追いかけている。その様子  
からすくあやまっていることが分かる。  
長者たちは目を見開き、口を大  
く開けている。この様子からすく  
驚いていることが分かる。このま  
に服そつや表情など、とても細かく

かいているところが実に素晴らしい。

信貴山縁起絵巻のことを知れば、知るほどおもしろい魅力が分  
かってくる。私はこの絵巻物を日本はもちろん世界中にも広げていま  
たい。この絵は870年も大切に保存されてきた。だから次は私たちが  
受け継いでいく番だと思ふ。

信貴山縁起絵巻を読む 六年組 山田実沙

この絵は、「信貴山縁起絵巻」飛倉の巻の場面。信貴山縁起絵巻とは、平群町の信貴山朝護孫子寺に納められた。八百年の間、大切に伝えられてきた絵巻物の事だ。



国宝であり、日本三大絵巻の一つである。

絵をくわしく見こみよう。

この場面には威から黄金のはちがごだしている様子が描かれている。それぞれの表情に注目してみよう。もちろん、いびきをかいている人も、笑っている人も、様々な表情を筆一本で書きあげたのは実ははらしい。家敷にも注目してみよう。かわらが地面におちている。いびきをかきながら、

来ている人からそれほど勢いも、大きな音でたんはちがごだした。この事が、かかると、部屋の豪華な装飾なども細かく描かれていて、事に「長者の部屋」を表現している。

この絵巻には、丸いものが、絵巻を見るだけで語が伝わる、からやうがある。何百年も前にかかれたこの絵巻物、次は私達が後世に語りつぎ、ついでに、いびきをかきながら、